

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 24 年度

事業所番号	2790800052		
法人名	株式会社 はなの街		
事業所名	グループホームはなの街		
所在地	大阪市東住吉区住道矢田1丁目6-10		
自己評価作成日	平成 24年 9月 15日	評価結果市町村受理日	平成 24年 11月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800052-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 24年 10月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念に基づき認知症になっても、人権・尊厳・個性を尊重しながら、お一人おひとりと向かいあう姿勢を大事に高齢者の方々の生活を支援することを職員一同常におもいながらより添えられるようにしているところ。 また看護師が常勤で勤務している為、医療度の高いかたでも、受け入れは可能などところ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「最後まで自分らしく生きるために」の理念のもと、利用者の人権・尊厳・個性(多様性)を尊重したサービスを実践しています。常勤2名の看護師が勤務している為、医療度の高い利用者も受け入れていきます。地域との連携にも積極的に取り組み、ホーム敷地内の広場では地域住民と、夏祭り・流しソーメン・餅つき等の行事が行われています。また、ホームの花壇は近所の方が自主的にメンテナンスしてくれる等、地域の応援は利用者の暮らしに潤いを与えています。職員育成にも手厚い配慮がされ、働きやすい環境で働けることに職員は感謝しています。それが職員の定着率の高さとなり、利用者の安心に繋がっています。日々の暮らしの中に「喜びと自信」を持ってもらえる支援を心掛けている職員の表情も、「喜びと自信」が見られるグループホームです。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や、各フロアに理念を掲示し、毎朝のミーティングの時、またスタッフ会議の時など、必要に応じて、学習会を行っている。	事業所の運営や日々のサービスの拠り所とする大切な事柄を「理念」と「私たちの思い」の二つに明文化し、各フロアに掲げています。職員は、理念にある「最後まで自分らしく生きるために」の内容を日々確認し合いながら、目標としている「利用者が喜びと自信を持った生活が送れるように」をサービス実践の中で活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りに参加したり、施設の前が地蔵盆の場所になっていることから、地域の方々と、一緒に参加させて頂いたり近隣の商店街に買い物を楽しんだりしています。	事業所と地域の関係は年々密なものになっています。事業所前の花壇・菜園では、季節毎に花の植え替えや水やり等、メンテナンスで近所の方の全面的な支援を得ています。地域の方から大きな水槽の提供も受けて、金魚を飼って楽しんでいます。自治会に加入し、地域の清掃、夏祭り等、地域の行事にも参加しています。地蔵盆、流しソーマン、餅つき大会等は、事業所前の空き地（駐車場）を活用してもらうことで、利用者も参加しやすく、地域の人達との交流にも繋がっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	在宅で介護されている方の、相談に応じたり、独居生活されている高齢者の相談に応じています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間予定を立てて、計画的に開催しています。 多くの家族に参加していただき、様々な意見をもらい、サービスの向上に活かしています。	運営推進会議の開催規程を定めています。会議は地域包括支援センター、家族代表、利用者代表、地域代表が参加し、ほぼ2ヵ月に1回、年6回、定期的に開催しています。会議では、主に事業所の状況、行事の内容、職員研修の内容等を報告・説明を行い、参加者から評価や助言を得て、事業所の運営に活かしています。議事録も作成して関係者に配布しています。地域代表としては、町内会長が構成メンバーの一人になっていますが、業務が多忙のため、参加が少なくなっている状況です。	地域密着型サービスとして、地域の理解と協力は、今後ますます重要になると考えられています。今後は、運営推進会議にも地域代表が参加できるよう、町会長とも相談を行い、民生委員、老人会、女性部の代表等、範囲を広げて協力を得られるよう検討してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3ヶ月に1回の東住吉区介護保険事業所連絡会や、2ヶ月に1回のグループホーム会議等で、意見の交換会を積極的に行っています。	区の担当とは、日頃の業務を通して相談できる関係ができています。成年後見人の選定で相談したこともあります。これまでに大きな事故等がないため、事故報告はない状況です。区主催の連絡会やグループホーム会議の折にも、市や区の職員とも意見交換や相談をしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者本人のありのままを受け入れるとこの、研修を行い拘束しないことを、徹底しています。また、認知症の理解を深める為の学習会も行っています。	管理者は、身体拘束をしないケアの大切さを理解しており、マニュアルの整備や、職員の研修を実施しています。また、身体拘束をしないケアを徹底しています。利用者のありのままを受け入れるケアが、現場に浸透しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアから虐待の始まりと考え適切なケアを行っていく様に、スタッフ会議で話合っています。又職員がストレスを溜めない様な関係づくりに努力している。新聞・ニュースで取り上げられた事などは、積極的に話し合い共有することで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が利用者に新しく担当されたりされた時など、その必要性等をミーティングで話し合うよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、必ず説明を行っています その他、不安や疑問のある時は、その都度、電話や面談を行い、理解していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満などを表に出せる様な環境づくりを心掛けている。入居者への言葉かけや、表情を見ながら意思確認しています。苦情受付窓口があることを契約時に説明を行い、気軽に何でも言ってもらえるように働きかけています。又、面会時には必ず声をかけ心配な事など、ないか、聞くようにしています。	家族の面会時には必ず利用者の様子お伝えたり要望を聞いたりしています。毎月、小遣いの内訳を送る際には、写真や近況を知らせる手紙を同封します。家族会があり、家族会通信も発行しています。気軽に何でも表出してもらう雰囲気作りを大切に、家族からの意見をサービス改善に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議を行い意見や提案を聞き、対応し職員がより多く話せる風通しの良い職場になるよう、心掛けています。	毎月1回、全職員参加の会議で意見を出し合っています。日常的にも意見が出しやすい雰囲気づくりを大切にしています。新人職員の育成は、介護経験のない職員には2ヵ月、介護経験のある職員には1ヵ月、マンツーマン対応で支援します。また、夜勤は新人職員が大丈夫というまでは、管理者が宿直をしながらフォローします。他に勤務希望は100%聞いてもらえる等、安心して働ける職場環境への配慮は、職員の士気を高めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力、具体的な実践、勤務状況を把握し、処遇への反映、向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。 勤務希望は100%叶えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて外部研修を推進しています。研修終了後は、スタッフ会議で、発表して全体に反映しています必要な資格取得の支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東住吉区介護保険事業所連絡会や、グループホーム連絡会に加入しており相互の交流を図っています。良いところは、参考にしています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の、アセスメントでニーズを把握し、施設の生活に速く慣れていただけるように、寄り添っている時間を配慮している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居時の面接でご家族のニーズを聞き、取り入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、当ホームでは対応困難なケースはきちんと説明し、理解を頂いた上で、どんなサービスが良いか相談にのり、他のサービスの種類を説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として生活の知恵（古くからの習わし事や家庭菜園の種蒔植え方、料理方法など）を日常生活の会話の中で、教えていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に考えながら、利用者にとって一番良い方法を考えています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人などは、いつでも気軽に面会に来て頂けるよう伝えてあります。 行きたい所は可能な限り、家族と相談して、行ける様にしています。	利用者の友人がホームに来訪することもあります。行きつけの美容院や懐かしいたこ焼き屋に行く利用者もいます。大衆演芸が好きだった利用者とは演芸場に行きました。携帯電話を使っている利用者も数名おり、友達や家族との通信を楽しんでいます。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間は、職員と共に時間を共有しています。ほとんどの人がリビングで過ごし談話したりテレビを観たりして、自立度の高い方が、世話をしている様子が、見受けられます。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をされた場合などは、ほぼ毎日様子を見に行っています。 他のサービスを利用された方などは、時々様子をみに面会に出かけたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる際は、本人・家族のニーズを把握し、出来る限り希望を実現できる様にしています。	入居時には、利用者・家族から生活歴や暮らし方の希望・意向を聞きとり、フェイスシートに記録しています。入居後1～2週間が経過して落ち着いてから、改めて希望や意向を聞きなおします。一人ひとりをより理解するために「私をもっと知ってください」シート作りを始めました。	日常的な支援の中で、気づいたことや発見を記録に残し、よりその人らしい暮らしの支援に活かすことが期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は情報収集を充分に行い、在宅での趣味・経験を活かして本人の、出来ること、出来ないことを把握し活躍の場づくり充実した暮らしが出来るようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子と毎日の申し送りで把握しコミュニケーションを図りながら、各受け持ちが、それぞれの出来ることに応じて、状態の維持に努められるように、生活リハビリを行いながら、毎日を過ごしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各受け持ちが、利用者の1ヶ月の総まとめを行い、モニタリングで次の計画に反映している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。ケース記録用紙には、各利用者のサービス内容が書かれており、職員はサービス内容を確認しながら支援にあたっています。モニタリングは担当者に意見を聞きながら行い、次の計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を経過記録表に記録する事でケアプランに基づいたサービスを提供しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した時は、その都度ミーティングを行い、ニーズの把握に努め柔軟な支援に心がけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社に初詣に行ったり、銭湯の足湯を楽しんだり、また公園で桜の花見したり、ブランコで遊んだり、と日々を送っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの生活と同じように、在宅で観てもらっていたかかりつけ医にそのまま引き続き診察を依頼しています。	利用者それぞれがかかりつけ医の往診にきてもらっています。急変時には、24時間対応可能な在宅専門の医師が協力してくれる体制がとられ、土・日・夜間も対応してもらいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であるために、日々の健康管理をかかりつけ医と連携を取りながら24時間体制で支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合、ほぼ毎日、面会に行き、声かけを行っている。その時、病院との情報交換を行い入院中の注意することや、不安なく退院出来るように連携している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りに関して説明を行い同意を頂いています。さらに重度化した場合は、再度家族に、今後の事を相談しその都度、説明と同意を得ています。	希望があればホームでの看取りも可能です。年に一人は看取りを行っています。終末期の生活支援マニュアルを作成し、家族にも終末期のケア内容を説明して同意をもらっています。看取りの際には、看護師資格を持つ管理者が宿直し、職員の不安を軽くしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	その様な場面が発生した時などには、特に救急の対応について、勉強会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の、年1回の定期訓練と、自主訓練1回、で計年2回は必ず避難訓練を行っています。 地域の町内会長さんによる、避難場所の確認、及び、地域の避難担当者の説明を受けました。	年2回避難訓練を実施し、1回は消防署指導のもとで実施しています。町内の防火訓練にも参加しています。地域の避難場所も確認しています。災害時のマニュアルも作成しました。非常用備蓄も用意しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人にあった声かけをしています。特に排泄や、入浴時は不安や羞恥心への配慮を心がけています。	理念の一つである、人権・尊厳を尊重した日常のケアを実践しています。毎年、「接遇の基本動作チェック」で職員は自身の振り返りを行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	行事予定、外食など本人の希望を取り入れ参加して頂いています。特にお誕生日会の食事や、ケーキ・などに意見・希望が集中します。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者中心で、個人のペースに合わせ業務優先にならない様に気をつけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きな洋服を選んでもらい、外出時は、お洒落を楽しんでもらいます。居室の洗面台の鏡で、お顔を見ることをすすめています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえで皮をむいたり、ネギを刻んだり、もやしの根っこを取ったり、また後片付けなど、一緒に出来ることを行っている。	業者から献立付きの材料を仕入れ、ホームで3食調理しています。利用者にも下ごしらえや後片付けを手伝ってもらうこともあります。食事を楽しむ雰囲気心を心がけ、一人ひとりのペースに合わせた介助を行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によるカロリー・栄養面での計算された食事の提供。水分摂取は慢性疾患の方は主治医の指示で、1200ccそのほかの方々は1200cc～1500ccでチェックしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、一人で出来ない方には声掛けや介助を行います。義歯の管理が困難な方は、職員が行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿チェックにて個々に誘導しています。尿意がしっかりしてこられた方には日中は布パンツ使用に変えています。	原則トイレでの排泄ケアを行っています。頻繁な放尿があった利用者が、入居後排泄が自立し、自信を取り戻した事例があり、排泄ケアの大切さを職員は学びました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、バランスの良い食事を勧め、時には腹部マッサージや、腹圧がきちんとできる様に呼吸を指導しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方が多いのでゆっくり楽しんでもらっています。また、季節を楽しむために「菖蒲湯」・「ゆず湯」も考えています。	基本的には週3回の入浴です。近くの銭湯で開放している足湯を楽しむこともあります。入浴を好まない利用者には無理強いせず、本人が入浴する気持ちになるよう働きかけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、体操、リビングにてお茶を飲んだり、ほとんどの人がホールで過ごされているため、安眠されています。また寝る時間まで自由にホールでテレビ鑑賞しておられるので、暖かい飲み物(ホットミルク)等を提供しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬について、新しく開始になる時等スタッフに説明し、間違いが起きないように、支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の出来る役割を見出し、活躍の場を作り満足感を得てもらえるようにしています。また「ありがとう」の感謝の言葉を忘れないようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏の間は散歩を控えていますが、おやつの買い物・洋品店に下着の買い物 八百屋さんにくだものの買い物等利用者の方々の希望に添って喫茶店へ出かけるなどの支援を行っています。また家族との外出、外食もあり協力を得られています。	近所の喫茶店やおやつを買いに駄菓子屋に行きます。桜やコスモス等、季節の花を見に出かけることもあります。近くの公園からは中学校のグラウンドが見え、子ども達の元気な姿を見ることができます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを管理できる方は、¥1000～¥2000の自己管理を行い喫茶店や、散髪代を個人で支払います。それ以外は、ホームで管理しています。買い物は、一緒に行き購入します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の利用や、施設内の電話で各個人が好きな時に、やり取りできています。又季節感を味わってもらう為に年賀状や暑中見舞いの葉書を書いてもらい、家族に送っています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ガラス窓に、季節にあった絵を描き利用者さんに楽しんでもらっています。ホールには、ソファを置いて楽しい空間づくりを心がけています。	広い共有空間があり、ソファや椅子がいくつも置かれ、ゆったりと設定されています。壁には季節の流れを感じる各行事の写真や製作物を貼っています。感染症予防として清潔にも心がけ、手すり等の消毒も毎日行っています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル、または居室で好きなように過ごしています。 日中ホールではほとんどの方がテレビを見たり絵を描いたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の大切なもの（家族の位牌、写真、本や置物など）を持って、こられる事を進めています。 居室は好きなように配置し居心地良く過ごせるようになっています。	利用者が以前使っていた馴染みの家具や、大切にしている家族の写真等を持ち込み、その人らしい居室作りを工夫しています。仏壇を持ち込んでいる利用者もいます。居室内に飾っている孫からの手紙を見せてくれた利用者の嬉しそうな表情から、職員の日頃のケアが伺えます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールは周囲に手すりを設置しており安心して、歩行出来るように工夫しており、ドアは全て引き戸にして、出入りが、スムーズに行えるようにしています。		